

2017年度 プロGRESSコース

未来映画社・プロジェクト報告書

2017年 11月 16日
龍谷大学3回 今井 敦
龍谷大学3回 坂本 みゆき

1, 未来映画社について

私たちが行った未来映画社での活動の報告をする前に、まずは未来映画社について記述する。

昨今で興業的に成功する映画と呼ばれるものは、大手の製作会社がお金をかけて 3 か月前後で製作されたものを、シネマコンプレックスという全国にある複合映画館で 1 か月弱公開されるものである。そこに小規模の製作会社が入る隙間はない。

そんな中、未来映画社は、2014 年に公開された作品『拳銃と目玉焼き』の宣伝及び配給から始め、現在までに映画の製作から配給まで自ら行う法人の設立として生まれた。未来映画社は、平均スタッフが 3.5 人、予算が数百万円と、大手の製作会社には程遠い規模でありながら、『拳銃と目玉焼き』は 2013 年の完成から娯楽映画として高い評価を受けた後、2014 年には各地のシネマコンプレックスで劇場公開がなされ、2015 年には DVD の発売と全国でのレンタルが開始され、大きな話題を呼んだ。私たちが関わらせて頂いた作品『ごはん』は、2017 年 1 月に劇場公開され、今現在に至っても各地から様々な規模で上映会をさせてほしいと求める声が止まず、DVD の発売も待ち遠しくされている。

未来映画社が掲げる長期的目標は、低予算でハイクオリティーな娯楽映画の長期的再生産サイクルの確立である。安田さんは、「しつこくよりクオリティーの高いもの」、「撮り直しも辞さない」ことをおっしゃった。私たちインターンシップ生は、この長期的目標に添えられるよう活動していく為に、以下の 5 つの活動計画に取り組むこととなる。

- ① 現場での知識・スキルの習得及び実践→②, ③へ
- ② 映画『ごはん』追加撮影→④へ
- ③ 短編映画製作→⑤へ
- ④ 上映会の企画
- ⑤ 映画祭への出品

2, 映画『ごはん』追加撮影

i, 映画『ごはん』

映画『ごはん』は、米作りをテーマに一人の娘と亡き父の想い、そして美しい水田の風景を描く娯楽映画である。

『ごはん』は今年すでに公開されていたが、作品を観賞した人々からの声を聞くと、安田さんはより良質な映像美、より良質な演出、そしてより良い完成度を求め、5 年目の撮影に取り掛かったのである。このようなことは、大手の製作会社には到底真似のできないことだ。

私たちは、アシスタントとしてその追加撮影の現場に参加した。

ii, 撮影前の活動報告

撮影に入る前に、実習生 2 人とコーディネーターである渡邊先生の 3 人で『ごはん』を鑑賞した。観終わった後、感じたこと、気が付いたことを後日安田さんに伝えたり、安田さんからの話で撮影の裏話や演出の意図を聞いたり、少しずつこの作品に携わっていくことに対しての気持ちの準備を整えていった。

iii, 撮影の活動報告

いよいよ撮影の活動に入る。基本的に午前10時頃から午後6時頃まで、昼食の休憩を挟んで丸一日行われることを数回繰り返した。

私たちは機材の講習をじっくりと受けることができなかつた為に、初日は何が何だか頭ですぐに処理ができずにその場に立ち尽くしてしまうことが多かつた。そんな中、安田さんから「指示を待つのではなく、自分で考え動くことが大事だ」と言われて思い直し、慌てて動いていた。

撮影と一言で言っても、簡単には済まないこだわりが多くある。シーン毎に合ったレンズやカメラの種類があり、クローズ・アップとロング・ショットでは様子が全く異なり、太陽が雲から顔を出すのをひたすらに待った。こだわればこだわるほど、より良質な映像美を追求することができることは目に見えていたが、それが要する時間は想像以上に莫大なもので、5年に渡って撮影が行われる所以を思い知らされた。

技術的な面では、様々な基礎を教わった。三脚の扱い方、カメラの扱い方、レンズの交換、バッテリーの扱い方、コード類の扱い方、荷物の積み方など、撮影において欠かせない知識を詰め込んだ。それは想像以上に複雑な代物で、何度も頭の中でシミュレーションしたり復唱したりと、なるべく早く身につけようと必死だった。レンズなどカメラ周辺の高価なものや三脚などの怪我の原因になりやすいものはより丁寧に扱うことを意識した。また、今井は音響を、坂本は照明を教わった。

技術的な面以外では、真夏の環境下での体調管理に気を付けた。たった数時間で軽くペットボトル2本分の水分は消費し、衣服は溢れ出る汗で着替えが必要となるくらいだ。帽子などは決して欠かすことができず、一歩間違えれば熱中症だっただろう。首にかけたタオルは汗を吸いまくってこれもとても役に立った。

私たち人間が体調管理に四苦八苦する中、私たちより先に倒れてしまったものがある。カメラである。あまりの猛暑での長時間の使用により熱を持ちすぎたカメラは、撮影途中で突然うんともすんとも言わなくなってしまった。撮影を中断して冷却するも、一度復活してはまた消えてしまう。この機材トラブルにはさすがの安田さんもお手上げ状態であった。

一味様子の異なる撮影も行われた。田圃の水中の様子を撮る為に、田圃の中に透明の水槽を沈めて設置し、その水槽の中に小型のカメラを仕込むというものだ。中々、田圃の水の量が水槽を浮かせてしまうなど上手く設置ができなかつたり、水槽が光の反射により映り込んでほしくないものを映してしまっていたりと、何度も設置する場所を吟味することを余儀なくされた。

安田さんのご実家を使って、2日間にかけて撮影が行われたときもあった。1日目は、撮影環境を整える為に安田さんのご実家を整理した。窓に暗幕を張って光を遮断し、屋内の撮影であっても窓から見える景色も調整する為に屋外の鉢植えを移動させた。

撮影の中で、私たち実習生はそれぞれがそれぞれだけの特有の持ち場を経験させて頂いた。今井は、安田さんが運転する車の後部座席からカメラを操作した。まだ慣れないカメラの操作に、農道を進む車体の振動も相まって上手く映すことのできない中、安田さんからの厳しく熱い叱咤が飛び交い、リテイクを何度も行った。今井はその日の活動の中で何度も心が折れそうになるが、何としてでも良い映像を撮ってみせると食らいついた。坂本は、カメラの位置等を確認する際に、主演の沙倉さんの代わりに入ることがあった。自転車を漕いだり、寝床から起き上がったりと、言われるままに見様見真似でやっていたとき、本当に何と

も言えない不思議な感覚になった。自転車を漕ぐシーンでは、凸凹とした農道の真ん中をキープして走り続けることに苦戦していて他のことに気がいかなかったが、寝床のシーンでは色々考える余地があったはずだろうに、それでも今代わりにやっているという以外に感想が湧かなかった。強いて言うならば、吃驚している気持ちが長く細く続いている感覚が今でも思い出される。

3, 映画『ごはん』上映会

i, 企画の活動報告

場所、動員数、日時を決めていく。この時点では、定員は50人程度で入場料は無料の小規模での開催を考えていた。場所は、私たち実習生の拠点ともなる京都市伏見区、映画の舞台となる城陽市、その他京都内を上げていき、その中から会場として成り立つ施設を探した。

一度、場所は城陽市福祉センター、動員数は50~100人、日時は10月9日祝日の昼、入場料は施設の規約上無料で動き出すが、私たち実習生の大学での正課との都合が合わず、企画は流れる。その後再び企画し直すが、目星を付けた施設が尽く既に先約がいて、中々定まらない。紆余曲折の末、場所は文化パーク城陽東館4階大会議室、動員数は230人、日時は10月28日土曜日の夜、入場料は前売券500円・当日券700円に決定した。18時50分という遅い開演時間、当初の構想より遥かに多い動員数、入場料を設けること、そのどれもが私たちの次の活動に向けて身を引き締めさせることとなった。

ii, 広報の活動報告

上映会の詳細が決まると、安田さんの下でチラシとポスターが用意され、9月25日より広報活動が始まった。それから約1か月先、上映会前日まで粘り強く活動を行うこととなる。

広報活動は主に、城陽市内、特に近畿日本鉄道京都線の寺田駅と文化パーク城陽周辺の飲食店や店舗、学校に対して一軒ずつ交渉してチラシとポスターを置かせてもらうことを繰り返した。私たちは互いに講義の入ってない空き時間などの隙間時間も駆使して、城陽市に通った。二つ返事で引き受けて頂けることもあれば、店の規則や趣旨に合わずお断りされたこともあった。それでも話を聞いてくださった方々は私たちの活動を応援して下さっていた。その他に、城陽市内の住宅地へのポスティングや龍谷大学での掲示を行った。また、安田さんの方で未来映画社のSNSでの告知や新聞へのチラシの折り込みも行われた。

上映会の五日前、前売券の売れ行き具合を確認すると、文化パーク城陽の窓口で6枚、安田さんの下で20枚だった。当日を目前にして手応えのないこの現状に、私たちは落胆してしまうも、ここで挫けてはいられないと思い直し、広報活動を続けた。

iii, 当日の運営の活動報告

前日まで広報活動を粘りに粘るも、五日前の売れ行き具合でやはり動員数が見込めないかもしれないことに不安を覚えた。しかし、前日から当日にかけて知らされた前売券の売れ行きは、文化パーク城陽の窓口で37枚、安田さんの下で49枚だった。予想していなかった大逆転に、とても吃驚した。

当初は同行予定であった安田さんが不在ということになり、当日は私たち実習生と、再生

機器を担当して頂ける南野さん、アルバイトで手伝って頂ける岩見さんの4人で行った。当日の運営は、一週間前からある程度の確認がされるも、当日に集合してから何度も再調整及び再確認が行われた。会場の貸し出しは18時からで開場は18時30分からのため、たった30分の中4人だけでいかに効率よく会場設営や来場者誘導等を行えるか、細かくシミュレーションした。

設営は、椅子並べ、受付設置、再生確認を手分けして行った。受付を設置していると、早くから来ていたお客様が多くいらっしゃり、緊張で前売受付と当日受付の目印を左右逆に設置してしまっていたが、同時にお客様から何度か声を掛けられるたびに、この上映会を楽しみにやってくるのだと実感した。かなり急いで行った為、予定よりも早くに設営が終わり、開場時間よりも早めにお客様をご案内することができた。中には、この上映会と入れ違いになる文化パーク城陽での別の催し物からこの上映会のために急いでくるという方もいらっしゃって、開演後も受付業務は気が抜けなかった。

上演中、笑いを狙っているシーンではざわざわと笑いが起き、感動的なシーンでは啜り泣く声が聞こえた。観客がみな、『ごはん』の世界に引き込まれていることがよくわかり、この作品が面白い作品であることを再び実感した。

終演後には、主演の沙倉さんも駆け付けてくださって舞台挨拶を行った。また、簡単に挙手制でのアンケートを取った。アンケートというのは、この上映会を何で・どこで知ってご来場されたのかを聞くものだ。大きく分けて、市内に置かれているチラシ・ポスター、文化パーク城陽の情報、新聞、SNS、その他の5つの項目を設けた。結果は、チラシ・ポスターと新聞が多く、他は少数だけれども必ず手が上がった。その他の項目に手を挙げた方を一人、何で知られたのかを詳しく聞くと、家族から聞いたのだという。所謂口コミというパターンである。

最終的に、前売券と当日券を合わせて100人以上の来場があり、客層は40代からお年寄りにかけてとなった。この日は台風が近づいていた為に大雨で足元が悪かったが、それでもこれほどまでに大勢のお客様に足を運んで頂いたことは、やはりとても嬉しいし、大きな達成感がある。これは、私たちの約1か月に渡る広報活動の成果であり、広報活動にご協力頂いたすべてのみなさまのおかげであり、『ごはん』が愛されている作品であるということに他ならない。映画『ごはん』の上映会は、大成功に終わったのである。

4, その他の活動

その他の活動として、当初に予定されていた短編映画製作と映画祭への出品の2つの活動に関する現状を記述する。

まず、短編映画製作に関しては、9月頃に脚本が上がってくる予定であったが、ロケ地の確保のし難さ等中々短編映画を製作するに当たってベストな脚本には至らず、私たちが携わったことはその没案となってしまった脚本を読むことだけとなった。

次に、映画祭への出品に関しては、国内外で開催される様々な映画祭の下調べをすることを、現在進行形で行っている。

5, まとめ

今回のインターンシップ活動では、全体を通して映画に関する様々なことを学んだ。機材

の基礎から、映画業界の闇と言える裏側の話、撮影時のノウハウや苦勞等、普段生活している中では到底触れることすらできないことばかりだった。特に撮影の中で学んだ、「指示を待たない」こと、「考えてすぐ動く」ことは、映画の撮影に関わらずどんな仕事においても言えることであるというのは、当たり前のように聞こえて実際は意識しなければ全然できないことだと思い知らされ、己の未熟さを悔しく思った。

惜しいと思う部分は、もっとやれることがあった、ということである。追加撮影の活動に関しては、体調管理が行き届かなかったことや、どうしたらいいだろうかという戸惑いで生じたタイムロス等、少し気を付けるだけで活動がもっと有意義になったであろうと思える部分が多かった。上映会の活動に関しては、総じて積極性が足りず、安田さんに先導して頂くばかりだった。実習生同士のコミュニケーションも上手に取り合うことができず、同じ大学内に通っているながら、中々直接会って話し合うことができなかった。この活動報告には記述することができないが、残り僅かな時間で、映画祭の下調べをこの惜しさをバネにしてもっと有意義にやり遂げようと思う。

そんな心残りがありつつも、追加撮影や上映会できちんと成果を残せたことは、胸を張って言える。追加撮影では、今井の懸命に活動する姿が新聞（画像1）に載せられていた。催し物の感想と言えば、昨今はSNSが主流であるが、お客の年齢層が高い故に新聞の読者投稿欄（画像2）に上映会の感想が載せられていた。

私たちの活動は、未来映画社の長期的目標にはまだ遠く及ばない末端のものであった。しかし、少しでも未来映画社の中で有意義なものとなってくださっていただければ、私たちの活動は成功したと言えるだろう。私たちのインターンシップ活動に関わって頂いたすべてのみなさまへ、お礼を申し上げます。

(本文=約 5700 文字)

